

令和5年度

学校自己評価報告書

令和6年2月

一般社団法人 山形県歯科医師会立

山形歯科専門学校

I 学校運営基本方針

山形県歯科医師会立歯科衛生士養成校として、「歯科衛生士養成所指定規則」並びに本校「学則」に則り、地域歯科医療を担う、心豊かな人間性と知識とに裏付けられた専門職の育成に努めます。また、長期的視野から、歯科衛生士の社会的認知度の向上を図りつつ、教育活動のさらなる充実をめざして、適切に学校評価を実施することで学校運営の改善を図ってまいります。

II 重点目標

- (1) 充実した学習活動の展開
- (2) 学校の将来構想に係る検討の推進
- (3) 就職・国家試験対策等進路指導の充実
- (4) 学校生活の充実と心身の健康管理
- (5) 学校環境の整備と安全教育の推進
- (6) 関係諸団体・地域社会との連携の推進
- (7) 健全な財務会計の処理
- (8) 学校情報の適切な提供と学校運営の公開

III 令和5年度 学校自己評価について

1 基本的な考え方

本校では、平成28年度から学校評価事業を開始いたしました。初年度は自己評価の基本姿勢として、本校の学校運営全般にわたり、学生・保護者・講師・臨床実習施設長・山形県歯科医師会理事等の関係する当事者がとらえる本校の状況について、意識調査を実施し分析することを基礎におきました。意識調査は、上記II重点目標を評価項目としてとらえ、それぞれに関連する質問を作成して実施しました。そして、それらの結果を総合的に分析し、各目標の達成度を学校自己評価の指標といたしました。

そして平成29年度からは、第二段階として、よりよい自己評価をめざして、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目の改良、拡充を行いました。また、意識調査は継続的に実施し、過年度比較等を含めて当該年度の状況分析をするなど、可能な限り精度の向上に努めております。

今後ともこの学校自己評価の結果を基礎におき、さらなる教育の質向上を図ってまいります。

2 対象期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

3 実施方法

(1) 学校内に設置している「校内評価委員会」の構成員と、同会事務局である本校教職員全員の計13名により評価を行います。

なお、「校内評価委員会」の構成(計8名)は以下の通りです。

◎ 委員長 校長、 ○ 副委員長 副校長
委員 歯科衛生士科長、同副科長(2名)、事務長、教務主任、教務主任補佐

(2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。

(3) 評価は、年度一回2月に実施します。

(4) 評価結果の公開は、本報告書、必要に応じてアンケート調査結果等諸資料を学校HPに掲載することにより行います。

4 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施します。

- 1) 教育理念・目標
- 2) 学校運営
- 3) 教育活動
- 4) 学修成果
- 5) 学生支援
- 6) 教育環境
- 7) 学生の受け入れ募集
- 8) 財務
- 9) 法令等の遵守
- 10) 社会貢献・地域貢献

5 評価項目に対する評価

評価は4～1の得点制とし、基準は以下の通りです。

<適切-4点、ほぼ適切-3点、やや不適切-2点、不適切-1点>

次頁以降に、各小項目毎の14名の評価平均値を記載し、総合得点とします。

なお、点数の文字色は、
青 (3.8～4.0)・・・「良い」
黒 (3.5～3.7)・・・「まあまあ良い」
ピンク (3.0～3.4)・・・「要注意」
赤 (2.9以下)・・・「改善必要」を示します。

Ⅳ 自己評価に向けた調査

〔評価項目1〕教育理念・目標

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	3. 8	3. 8
B 学校における職業教育の特色は何か。	3. 8	3. 8
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3. 4	3. 7
D 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	3. 5	3. 1
E 学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界にニーズに向けて方向づけられているか。	3. 5	3. 7

(2) 今年度の主な取組並びに成果等

- ① 「職業実践専門課程」（文部科学大臣認定）5年目であったが、コロナ禍中とほぼ同様の感染防御態勢の中で試行錯誤の取り組みが続いた。校外での臨地・臨床実習については、各協力施設（歯科医療機関・学校・福祉施設等）との緊密な連携のもとでそれぞれ充実した実習を行うことができた。
また、今年度より山形市と上山市において地域保健指導の臨地実習を実施することができ、大変有意義であった。（A・B・C・E）
- ② 教育課程編成委員会を年2回開催し、本校教育の理念や目標、具体的方策等をより明確にするとともに、コロナ禍中や5類移行後における学習活動の実施方法等、多種多様な視点から学校運営の方策を協議し、それらを本校教育運営委員会等に報告しさらに検討を加えた。（A・B・C・E）
- ③ 学校HP（スマートフォン対応）の適時更新とともに、県歯科医師会主導「やまがた歯科衛生士お役立ち情報」コーナーとのリンクにより各種学校情報をHP上又はSNS上に随時公開することができ、広報の実が上がってきている。（D）
- ④ 緊急連絡にかかるシステム変更を行い、利便性を向上させた。また、保護者の参

入をお願いし、適切な情報共有や緊急連絡に役立てることができた。(D)

(3) 次年度への課題

- ① 各感染症防御の体制継続のもと、各種校外実習や学校間交流教育等の在り方を細部検討し、実施可能な活動を精選することで内容の充実と協力体制の連携継続を図っていく。(A・B・C・E)
- ② 学生との情報共有や緊急連絡等の方策について、緊急連絡システムの活用を中心にしつつも、多様な方途をさらに研究していく。(D)
- ③ 保護者への理解を深めるため、緊急連絡システムの有効活用等を含め、学校の理念や特色、運営体制や修学支援精度等について情報共有を図る。また、保護者面談等、相互理解の場を適宜設定してさらに協力体制を強固なものにしていく。(D)

[評価項目2] 学校運営

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	3.8	3.8
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3.8	3.8
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	3.7	3.6
D 人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3.0	3.1
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3.5	3.3
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3.7	3.6
G 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3.8	3.7

H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	2. 6	2. 5
------------------------------	------	------

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 教育運営委員会を中心に、学校運営の方法や施設設備の整備、職員の業務改善等に向けた総括的な検討を行った。(A・B・C)
- ② コロナ禍後の学校運営については、山形県内等周辺状況を踏まえながらも、医療系専門学校として協力施設との緊密な連携のもと、基本的な感染防御体制を維持・継続した。(C・F)
- ③ オンライン(含ハイブリッド)授業やWeb会議に係る準備や運営がスムーズに行うことができ、感染防御の実を上げるとともに、内容の充実と向上を図ることができた。(F・H)
- ④ 教育課程編成委員会で検討したことが学校運営全般の改善に反映され、内実の伴った会議運営ができています。(A・B・C)
- ⑤ 学校図書室運営検討委員会の検討を踏まえ、学習環境改善や図書の整理・整備、図書室の利用促進が図られた。学生図書委員会の活動の活性化もあり、「テーマ研究」や国家試験対策の学習等、利用する学生が増加している。(A・B・C)
- ⑥ スマホ対応の学校HPの活用、また専用ブログやインスタグラムの更新が頻繁に行われ、各種学校情報や特色等の広報を様々な形で行うことができた。(G)

(3) 次年度への課題

- ① 外部有識者を交えた諸会議を含めて、組織運営の意志決定機能は充分備えられているが、それに加えて、基本となる各段階の校内諸会議を定期的で開催し、学校運営に係る各人の理解を深め、学生情報等の共有をさらに推進する。
(A・B・C・E)
- ② データ集計等のIT化をより具体的に検討し、できる限り効率化と教職員の業務軽減を図っていく。また、既存システムの利活用を再検討し、校務処理等の一元化を進め、業務の平準化を図っていく。(H)
- ③ 就業規則の勤務時間の割り振りが学校の教育活動等と不整合の部分があり、各段階での様々な検討と調整、また改善に向けた具体策の策定が必要である。(C・D)

[評価項目 3] 教育活動

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3.9	3.9
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3.7	3.8
C カリキュラムは体系的に編成されているか。	3.8	3.8
D キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫や開発などが実施されているか。	3.8	3.7
E 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成や見直し等が行われているか。	3.8	3.5
F 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	3.8	3.6
G 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3.9	3.8
H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3.9	3.8
I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3.8	3.8
J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3.8	3.9
K 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3.7	3.5
L 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	3.5	3.4

M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3.4	3.1
N 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3.0	2.9

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 臨床実習については、臨床実習指導者会議や指導歯科衛生士会議をWeb開催とすることで、数多くの出席者を得て、教育内容や指導方法を共有することができた。また、教務による訪問指導等を実施し、実習先との連携を深めた。学生の取り組みは概して安定しており、学習の実が上がっている。(D・E・F・H)
- ② 臨地実習については、今年度もコロナ禍の影響でやや限定的な実施となったものの、実習全てにおいて大変内容の充実したものとなり、成就感や達成感に繋がった。また、今年度から山形市や上山市の保健指導業務を学ぶ実習も始まり、より充実したものとなった。(B・D・E・F)
- ③ 米国大学教授の講演は、今年度についても、現地と東京、本校を結ぶオンラインで開催(3年目)することができ、大変有意義な時間となった。(C・D・E・F)
- ④ 外部講師による特別授業を複数回設定し、各専門分野の先端的な知識や技術等を学習し演習することにより、学生の意欲向上に繋げることができた。
(C・D・E・F)
- ⑤ 第3学年「テーマ研究」の発表内容は大変充実したものとなった。また、限定的ではあるが後日Web上での振り返り視聴の取り組みも行うことができた。
(D・H)
- ⑥ 授業評価について、学生の「授業アンケート」と指導者の「授業状況総括表」という総括的な実施に加えて中間期にアンケート調査を実施し参考とした。また、その集約結果については関係諸会議に数値データの報告を行った。
(G・L)

(3) 次年度への課題

- ① 臨地・臨床実習について、本校最大の特色として、歯科衛生士の職業的特性を幅広く学ぶ体制をさらに充実させる。そして、教育効果の向上をめざして、学校と協力施設と緊密な連携をとる。(A・B・C・E・F)
- ② 各感染症に対する厳しい防御体制をもとにしつつ、実施可能な学校間交流の事業

内容を細部検討し、より有意義な形で実施する。また、外部講師による特別授業の充実を期し、より実践的な職業教育の実を上げていく。(A・B・C・E・F)

- ③ 教員の能力や指導力向上に向け、校内相互研修を基本とし、各種研修をさらに充実させる。特に、進化する歯科医療に対応するために、歯科医療現場における研修実施の可否を検討する。(M・N)

[評価項目 4] 学修成果

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 就職率の向上が図られているか。	3.8	3.8
B 資格取得率の向上が図られているか。	4.0	3.7
C 退学率の低減が図られているか。	3.5	3.4
D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3.7	3.5
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか。	3.4	3.4

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 昨年に引き続き、国家試験の全員合格・資格取得100%を目指し、全員指導体制を敷いた。(A・B)
- ② 就職に関する面談回数を増やすとともに希望者には面接練習を実施することにより、各人の意識向上を図った。(A)
- ③ 一昨年度より行っている卒後1年の同窓生に対する定期的なケアは、就業の達成感獲得や早期離職防止に効果を上げた。(D・E)
- ④ 昨年度に引き続き、学生自治会主催講演会「先輩歯科衛生士から学ぼう」を10月に開催し、在校生の意識向上とともに同窓生の状況把握や活躍の評価にも繋がり、

大変意義のあるものとなった。(D・E)

- ⑤ 各学年とも、担任による学生個別面談を適宜実施することにより、学生の状況把握と信頼関係の構築に繋がった。(B・C)

(3) 次年度への課題

- ① 歯科衛生士という医療専門職への理解を深化させ、学修の充実、目標達成への意欲向上を目指し、日々の学習活動に加えて各分野の特別講師による指導等、幅広い教育活動を推進する。(B・C)
- ② 「先輩歯科衛生士から学ぼう」講演会等を継続実施し、学生の意欲を喚起し、学修の充実に繋げていく。それとともに、早期離職対策の一環として卒業生の活躍・業績等を可能な限り把握するよう努める。(D・E)
- ③ 個別面談や保護者面談を繰り返し、また学校カウンセリングを適宜実施することも含め、学校と家庭の連携を密にして丁寧な指導を行い、学校生活の質の向上や確実な自己実現をめざす構えを育てる。(C)
- ④ 国家試験対策のスタート時期をできる限り早期にし、全員合格を達成する学校全体のサポート体制をさらに強化する。また、第1・2学年次における指導法を工夫することで段階的な指導を行っていく。(B)
- ⑤ 在宅の資格所有者に対する復職支援について、県歯科医師会主導の歯科衛生士確保に係る取り組みに協力し、県歯科衛生士会や本校同窓会と連携し、幅広く情報発信を行う。(D)

[評価項目5] 学生支援

(1) 評価得点

評価項目	今年度	昨年度
A 進路や就職に関する支援体制は整備されているか。	3.9	3.9
B 学生相談に関する体制は整備されているか。	3.9	4.0
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3.9	4.0

D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3. 9	3. 9
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3. 3	3. 2
F 学生の生活環境への支援は行われているか。	3. 5	3. 5
G 保護者と適切に連携しているか。	3. 5	3. 3
H 卒業生への支援体制はあるか。	3. 5	3. 9
I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3. 7	3. 7
J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3. 6	3. 6

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 各学年段階に応じた担任教務との個別面談や保護者面談、さらに進路選択・決定期においては担任の面談や面接練習等を繰り返し、可能な限り支援体制を充実させた。今年度も、コロナ感染症やインフルエンザ予防等心身の安定を図ることを重視した。(A・G)
- ② 学校カウンセラーによる教育相談が順調に行われ、上記①同様、概ね目的を達成できたと思われる。(B)
- ③ 本校独自の修学支援制度の運用とともに、3年前から「高等教育の修学支援新制度」の機関確認校として数多くの学生が対象となり、コロナ禍中の厳しい事態の中、極めて有益なものとなった。(C・I)
- ④ 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」講座指定校として、順調に当該事務を遂行した。対象者も大変安定した学生生活を送っている。(C・I)
- ⑤ 今年度も1年生による夏季休暇中の母校訪問を実施することができた。本人の現況報告や高校担当教諭の卒後指導により、大変充実した取り組みとなった。
(A・B・J)

(3) 次年度への課題

- ① 本校独自の修学支援制度である「特待生制度」「奨学生制度」双方の内容を再点検し、より学校の現状や学生の状況に合ったものに改正し、さらに意欲向上と経済支援の充実を図る。(C)
- ② 「高等教育の修学支援新制度」の運用を円滑に行うとともに、国や県の修学支援事業等に対し適切に対処する。また、「専門実践教育訓練給付」制度対象者の社会人入学者がさらに増加するように、同制度の広報を幅広く行う。(C・I)
- ③ 上記の各種制度等、本校が備える経済支援制度について幅広く広報し、本人や家族の確かな理解、そして高校生や社会人の本校志願者、さらに歯科医療界関係者等、幅広い理解に繋げていく。(C・F・G・I)

[評価項目6] 教育環境

(1) 評価得点

評価項目	今年度	昨年度
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3.5	3.4
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	3.0	2.7
C 防災に対する体制は整備されているか。	3.5	3.3

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 歯科ユニット等の重要な設備機器の更新・整備を行い。安定、充実した学習活動に繋がっている。(A・B)
- ② 学生図書委員会活動がより活性化するとともに、学校図書室の学習環境の整備が進み、「テーマ研究」の学習や試験対策等で利用しやすくなった。(A)
- ③ 学生用タブレット型PCを導入したことにより、情報関連の授業ばかりではなく、多様な用途で使用できるようになった。(A)

- ④ 学生対象の緊急連絡システムを更新し、保護者にも参入していただくことで、運用の幅を拡げた。感染症対策に係る広報をはじめとして、防災危機管理や各種連絡の用途に活用することができた。(A・C)

(3) 次年度への課題

- ① 旧型の校内施設設備等は、学校運営の中長期的な展望に基づいて更新・整備を行う必要がある。定期的な校内設備の安全点検を実施し、適宜整備・改善に努める。(A・C)
- ② 更新した実習用ユニットをさらに有効活用するとともに、関連機器等の利活用にも意を用いて学習を重ね、幅広い知識と確かな技術を修得させる。(A)
- ③ 次年度は、米国の大学教授が行う特別講義を5年ぶりに対面で実施する予定であり、世界の先進的な歯科医療事情や歯科衛生士の活躍の状況について理解を深め、幅広い視野を獲得して研修の実を上げる。(B)

[評価項目7] 学生の受け入れ募集

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 学生募集活動は適正に行われているか。	3.5	3.6
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3.4	3.6
C 学納金は妥当なものとなっているか。	3.6	3.8

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 今年度よりミニオープンキャンパスとして3～6月の各月末に広報活動を追加展開した。運営を担当する学生等の努力により、春・夏・冬計7回のオープンキャンパスは大変充実したものとなった。(A)
- ② 高等学校主催進路ガイダンスや個別の学校訪問等、例年同様可能な限り対面での広報を行い、歯科衛生士の仕事や本校の特色への理解の浸透を図った。(A・B)

- ③ 学校HP、専用ブログやInstagramの更新が頻繁に行われ、各種学校情報や特色等の広報を様々な形で行うことができた。(A・B)
- ④ 本校独自の修学支援事業や「高等教育の修学支援新制度」、また平成30年度より運用している社会人対象「専門実践教育訓練給付金」等、現在備えている経済支援制度の広報について、高校訪問や進学ガイダンス、オープンキャンパス、学校HP等各方面で行った。(A・B)

(3) 次年度への課題

- ① 入学者選抜について、その日程や方法等の全面的に改善検討を行い、意欲溢れる志願者が数多く受験できるよう体制の整備を行う。(A・B)
- ② 高校訪問、高校や各会場での進学ガイダンス、中学校への出前授業等の対面での広報について、さらに工夫を加えながら継続し、歯科衛生士の仕事について、さらに理解の浸透を図っていく。また、オープンキャンパスの回数や方法を検討し、参加者の増員を目指す。(A・B)
- ③ 学校HP・ブログ・Instagramの他、SNS上の各種広報について幅広く検討していく。特に、社会人や男子学生の受け入れを意識した広報活動もさらに推進していく。(A・B)

[評価項目8] 財務

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	2.9	3.4
B 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか。	3.4	3.6
C 財務について会計監査が適正に行われているか。	3.6	3.8
D 財務情報の公開の体制整備はできているか。	3.5	3.6

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 予算の執行や財務管理は適切に行われた。主要な教育設備機器等の更新年度にあたり、細心の注意を払いながら事務処理を行った。(B・C・D)
- ② 本校が備えている各種経済支援制度の運用等の手続きや事務処理については大変円滑に行うことができた。(B)
- ③ 学校HP上に財務状況の概略を公開し、客観性を担保した。(D)

(3) 次年度への課題

- ① 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度や、文部科学省「高等教育の修学支援新制度」を有効に活用し、今後も社会人や支援対象となる家庭からの入学者を幅広く受け入れていく。
また、本校独自の修学支援制度は7年目を迎えるが、中期的な視点に立ち、学生生活の安定と学びの充実を目指し、内容の改善を検討する。(A・B)
- ② 適切に予算を低減するとともに、日常的に経費節減を心がけ、安定的で継続性のある経営をめざす。(A・B)
- ③ 中長期的な見通しのもと、施設設備の改善整備や物品の更新、不具合箇所の修繕等を順次実施していく。(A)

[評価項目9] 法令等の遵守

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.9	3.8
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3.7	3.8
C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3.9	3.9

D 自己評価結果を公開しているか。	3. 8	3. 8
-------------------	------	------

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会をそれぞれ年2回、学校図書室運営検討委員会を年1回開催することができた。各委員会とも複数の外部有識者を委員委嘱して協議を重ねており、それらは確実に学校運営の向上に繋がっている。
(A・C)
- ② 学校評価事業開始8年目を迎えているが、その総括を通して学校の運営改善に大きく役立てることができた。さらに、自己評価や学校関係者評価の実施は、学校の一体感等を高めることに繋がった。また、それを学校HP上で公開することにより、少しずつ社会的な信頼獲得が図られている。(A・C・D)
- ③ 学校HP上に「情報公開」欄を設け、文部科学省が示すガイドラインに従い学校情報を公開した。(A・C)
- ④ 「個人情報保護方針」を学校HP上に公開している。(B)

(3) 次年度への課題

- ① 公開した学校情報や学生生活に関連した事柄について、保護者や家族、さらには歯科医療関係者に対してできる限りの周知を図るとともに、一般の方々に幅広く浸透させていく方策を検討する。(D)
- ② 社会情勢の変化に鑑み、就業前の学生という段階に応じた、SNS、スマホ使用時の情報管理について、専門的な視点からの指導を行う機会を設定する。また、定期的かつ継続的に実施できるように企画していく。(B)

[評価項目 10] 社会貢献・地域貢献

(1) 評価得点

評 価 項 目	今年度	昨年度
A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3. 6	3. 3

B 学生のボランティア活動を奨励や支援をしているか。	3.4	3.1
C 地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等含）の受託等を積極的に実施しているか。	3.0	3.1

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 4年ぶりの「山形花笠祭りパレード」は全校参加となり、大変充実した大きなイベントとなった。地域の盛り上がりもあり、本当に得難い充実した体験となった。主催者や地域・一般の方々からの温かい評価もいただいた。(A・B)
- ② 12月、内閣府主催「東南アジア青年の船」事業山形県表敬訪問の交流会に3年生22名が参加し、「花笠踊り」を披露した。大きな盛り上がりの中、社会的な意義のある達成感に溢れた経験となった。(A・B)
- ③ 学校周辺の地域清掃ボランティアを年2回（7月・12月）実施した。(B)
- ④ 3学年「テーマ研究発表会」の一部Web公開を行うとともに、振り返り視聴による一部公開が実施できたことは大変有意義であった。(A・C)

(3) 次年度への課題

- ① 第3学年「テーマ研究」発表会のWeb公開・振り返り視聴等をさらに推し進め、高校生・高校関係者、歯科医師会・歯科衛生士会・本校同窓会等関係者、さらには一般にも広報機会を設定する方向で検討する。(A)
- ② 各郡市地区歯科医師会との連携により、地域歯科保健活動や地域貢献活動への参加を推進し、幅広く地域社会への理解を深める取り組みを取り入れる。(A・C)
- ③ 地域の祭りや関係行事への参加や、学校周辺ボランティア等の活動について、感染症防御の体制を踏まえつつ、社会貢献・地域理解に係る活動の企画をさらに推進する。(A)

<以上>